

江戸川総合 人生大学

2019
入学案内

江戸川まちづくり学科

国際コミュニティ学科

子育てささえあい学科

介護・健康学科



EDOGAWA
SINCE 2004
SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU

学長あいさつ



誰でもが健康で長生きしたいと思っているはずです。

健康で長生きするためには次の3つが満たされることが必要です。すなわち、「バランスの良い食事」、「適度な運動」そして「生き甲斐」です。

「生き甲斐」は人により異なると思いますが、私は感動することと感謝されることだと考えています。定年または子育て終了後には、まだ20年から30年もの人生が残されています。

是非、江戸川総合人生大学で「生き甲斐」を一緒に見つけませんか。

江戸川総合人生大学 学長 **北野 大**
(秋草学園短期大学 学長 工学博士)
(淑徳大学名誉教授 工学博士)

● 目 次

● 大学の基本理念（建学の精神）	1
● 江戸川総合人生大学とは	2
● 募集概要	3
● 出願から入学までの流れ	4
● 授業概要	5
● 時間割の作成	6
● 学科紹介	
江戸川まちづくり学科	7
国際コミュニティ学科	9
子育てささえあい学科	11
介護・健康学科	13
● 必修科目	
えどがわ入門	16
社会活動体験	16
● 選択科目	
みんなで創る安全・安心	17
地球環境を考える身近な活動	17
くらしと健康	18
カウンセリングの基礎	18
● よくある質問	19
● もっと大学のことを知るには	20
● 入学願書	21

● 大学の基本理念（建学の精神）

（1）「共育」「協働」の社会づくり

総合人生大学は、区民が地域の課題を発見・認識し、その解決に向けて互いに知恵を出し合い、社会貢献へとつなげられる学びのシステムをつくり、こうした住民に支えられる「共育」「協働」の社会をめざします。

（2）「ボランティア立区」の推進

総合人生大学での学びの中心は実学です。ひとりでも多くの方が、学びの成果を地域に活かしていくことで、区民の活動に支えられる「ボランティア立区」の実現につなげていきます。

（3）「地域文化」の創造と継承

総合人生大学は、江戸川区固有の産業、歴史、自然等の学びを通して、地域を理解し、地域の新しい文化を創造するとともに、その魅力や誇りを次代に継承していくことをめざします。

《シンボルマーク》

江戸川総合人生大学のシンボルマークには、よりよい江戸川区を創造するための"種"をまき、その"芽"を区民とともに大きく育て、実りを大きくしていきたいという願いが込められています。



EDOGAWA
SINCE 2004
SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU

●江戸川総合人生大学とは

江戸川総合人生大学は、これまでの人生経験や知識を活かして、社会貢献を志す皆さんを応援するために、2004年に江戸川区が設立した学びと実践の場です。

江戸川区在住、在勤、在学の方で、学習成果を地域活動やボランティア活動等を通して実践する意欲のある方なら、どなたでも入学する事ができます。

講義は主にしのぎ文化プラザで行います。講義を聴講するだけでなく、少人数のゼミナール形式を中心に、フィールドワークやグループ研究など多彩な学習方法を取り入れて学んでいます。

*学校教育法等で定める正規の大学ではありません。

修学期間は2年間

1年次は主に専門科目、共通基礎科目を学び知識と経験を高めます。
2年次は主に専門科目にて課題研究に取り組み、また学習成果を地域に活かす実践能力を高めるため40時間の社会活動体験（ボランティア活動）を実施します。

大学にはテスト等はありませんが、進級や卒業する為には、決められた科目の単位取得や、規定出席日数を満たしていなければなりません。

これまでに約900人もの卒業生が各地域の場でボランティアとして活躍しており、生き甲斐のある人生を送られています。
あなたも大学の門をたたいてみませんか。

● 募集概要

募 集 学 科	地域デザイン学部：江戸川まちづくり学科 国際コミュニティ学科 人 生 科 学 部：子育てささえあい学科 介護・健康学科
募 集 人 数	4学科各25名程度 合計約100名
申 込 資 格	以下の2つの条件に該当する方 (1) 区内在住、在勤、在学の方 (2) 2年間継続して学ぶことができ、学習成果を地域活動やボランティア活動等を通して実践する意欲のある方。 ※年齢制限はありません。 ※外国人の方も歓迎します。ただし、日本語による授業のため、日本語の理解や日本語でのコミュニケーションが可能な方に限ります。
修 学 期 間	2019年10月～2021年9月の2年間
授 業 料	年間3万円
会 場	しのぎ文化プラザ3階講義室 ※外出しての講義もあります。
申込受付期間	2019年7月1日（月）～8月16日（金）※当日消印有効
申 込 方 法	本誌の巻末に添付してある入学願書に必要事項を記入し、江戸川総合人生大学事務局へ郵送、または持参してください。 また、ホームページ上からの出願もできます。
入学者の決定	(1) 書類選考の上、決定します。申し込みが定員を超えた場合は、抽選を行います。 (2) 8月下旬に、申込者全員に郵送にて結果を通知します。
入学手続き	入学決定後、入学関係書類、授業料納付書を送付いたします。定められた期間内に、初年度分の年間授業料（3万円）を納入してください。入金の確認をもって、入学手続きの完了とします。
入学式・講義開始	入学式は、10月2日（水）午後に実施します。 講義開始は、10月初旬からの予定です。
注 意 事 項	(1) 他学科との併願はできません。 (2) 共通基礎科目や専門科目のみの受講はできません。 (3) 学校教育法等で定める正規の大学ではありません。

《お問い合わせ・入学願書送付先》

江戸川総合人生大学事務局

〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 しのだぎ文化プラザ

【電話】03-3676-9075

【HP】<https://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

● 出願から入学までの流れ

江戸川総合人生大学の学生になるには？

● 入学願書提出

入学したい学科を選び、本誌に添付されている「入学願書」に必要事項を記入し、江戸川総合人生大学まで郵送または持参してください。

また、ホームページ上からの出願もできます。

7月1日(月)～8月16日(金) ※当日消印有効



● 結果通知(8月下旬)／授業料の納付(9月中旬)

出願の結果を申込者全員に郵送で通知します。入学者には入学決定通知と共に「授業料納付書」を送付しますので、期日までに指定金融機関でお支払いください。



● 第16期生入学式／入学ガイダンス

日時：2019年10月2日(水) 午後2時

場所：しのぎ文化プラザ講義室

(江戸川区篠崎町7-20-19 3階)



● 授業開始(10月初旬～)

● 授業概要

● カリキュラム

【1年次】 専門科目（基礎研究）と共通基礎科目を学び、知識と経験を高めます。

【2年次】 専門科目（課題研究）と社会活動体験を通じて、課題認識を深め、実践力を高めます。

● 開講日・時間帯

学年	科 目	学科（コース）	授業の曜日と時間	授業数	単位数
1 年 次	専門科目	江戸川まちづくり学科	金 10時～12時	30回	6単位
		国際コミュニティ学科	金 14時～16時		
		子育てささえあい学科	火 10時～12時		
		介護・健康学科	火 14時～16時		
	共通 基礎 科目	必修 えどがわ入門	木曜コース 木 14時～16時	10回	2単位
			土曜コース 土 10時～12時		
		選択 【4科目の内 2つを選択】	みんなで創る安全・安心 月 14時～16時	10回	2単位 × 2科目
			地球環境を考える身近な活動 水 10時～12時		
			くらしと健康 木 14時～16時		
			カウンセリングの基礎 月 9時15分～11時15分		
2 年 次	専門科目	曜日・時間帯は原則として1年次と同じ設定です。		30回	8単位
	社会活動体験	2年次に履修		40時間	4単位

● 年間の開講スケジュール（1年次）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
専門科目（まち・国・子・介）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
えどがわ入門（木曜 or 土曜）	●	●	●	●								
みんなで創る安全・安心				●	●	●	●	●	●			
地球環境を考える身近な活動	●	●	●	●	●	●	●					
くらしと健康					●	●	●	●				
カウンセリングの基礎 A			●	●	●	●						
カウンセリングの基礎 B							●	●	●	●		

大学祭7月下旬を予定

● 授業数

- ・1年次は、専門科目・共通基礎科目あわせて、年間60回程度です。
選択する学科・科目や授業の実施時期により異なりますが、概ね週3～4回です。
- ・2年次は、専門科目が年間30回、週1回程度ですが、授業のほかに年間40時間の社会活動体験、課題研究のための自主的な学習やグループ研究などを行います。

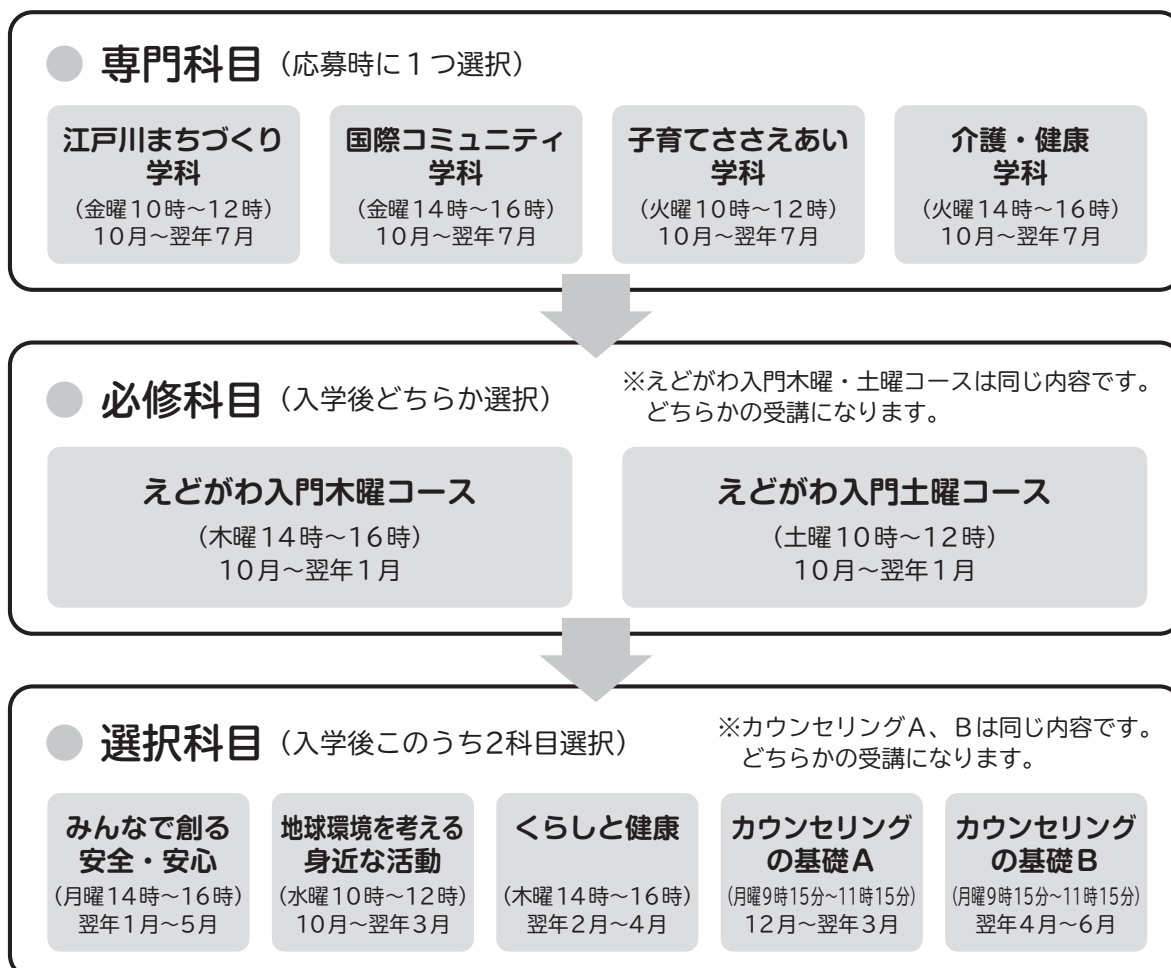
● 卒業に必要な履修単位数

- ・卒業には24単位の履修が必要です。※24単位とは、1年次と2年次の合計単位数

● 時間割の作成

「大学に入学したら週にどのくらい通うのか」そんな疑問をお持ちの方へ、入学後の時間割を作成して確認してみましょう。

*専門科目（学科）、必修科目のコース、選択科目は希望者多数の場合、抽選になることがあります。



時間割を作成してみましょう

時間 \ 曜日	月	火	水	木	金	土
10時～12時						
14時～16時						

*ここで作成したものは、あくまでもイメージです。
入学決定後、ガイダンスにて詳しく履修のご説明をいたします。

● 学科紹介



学科長

佐谷 和江

まちづくりコンサルタント
㈱計画技術研究所 代表取締役

《地域デザイン学部》

江戸川まちづくり学科（1年次）

● 目的・概要

江戸川区をより暮らしやすいまちにするために、自分にできる取り組みについて考えていきます。特に1年次は、①江戸川区を知る、②共に学ぶ仲間の良さを知る、ということを中心に授業を展開します。区内に出かけ、まちの魅力や文化を探る「えどがわの種探し」、いろいろなワークショップ手法（まちあるき、マップづくり等）の演習、学生によるまちづくりテーマの調査・発表等、楽しく実践的に学んでいきます。

● 講師 竹迫 和代

（ファシリテーター、参画はぐくみ工房 代表）ほか

● 曜日・時間 金曜日 10時～12時

● 1年次の授業計画

*内容は一部変更になる場合もあります。

実施回	テーマ・概要
第1回 ～ 第2回	オリエンテーション（全2回） 1年間の授業の流れなどを説明します。また、学生同士が楽しく知り合える「関係づくりワークショップ」や「まちづくりの概要」の講義を行います。
第3回 ～ 第9回	ボランティア・市民活動の現場訪問 地元、江戸川区について勉強する時間です。学生の皆さんに地域に出てもらい、地域で活躍している方々と意見交換等の取り組みを通して、自分が市民活動のテーマとして取り組んでみたいと思う「江戸川区の魅力や課題」を探っていきます。この授業は、自分にもできるまちづくりへの関わり方を発見し、改めて考える機会となります。住民参加型のまちづくりをテーマに、実践活動を行っている区内の活動団体を現地訪問し、その活動を見て、聞いて、習い、自ら取り組んでみたいと思う江戸川区の歴史や課題を探ります。 フィールドワークの後半では、ワークショップによる意見交換を行い、理解を深めます。
第10回	参加型まちづくり概論 “市民参加によるまちづくり”をテーマに先進的に現場で活動している実践者をお招きし、ワークショップの考え方やまちづくり事例を中心に学びます。
第11回	行政が進めるまちづくりから学ぶ 行政が進めるまちづくりの学びを通じて、今後の自らが取り組みたい課題を探るきっかけをつかみます。

実施回	テーマ・概要
第12回	民主的な会議の進め方 フラットな関係の仲間との会議を進めていく上で、大切にしたいポイントを学びます。
第13回 } 第17回	「聴く・話す・まとめる」のスキルアップ 5コマの授業を使い、学生同士が互いの主張を認め合いながら学びあうために必要な考え方、具体的なスキル（コミュニケーションの基本、ラベルワーク、ファシリテーショングラフィック）について実践を通して学びます。 また、「篠崎駅周辺のまちを知る・見る」をテーマに篠崎駅周辺をグループでまちあるきし、普段とは違う見方でまちを歩くことの面白さを体感します。 そしてまちあるきで気づいたこと、発見したことを地図を整理する手法を学びます。
第18回 } 第20回	地域の魅力再発見 地域の自慢の資源（モノ、人、その他）を写真や新聞記事などの形で持ち寄り、居住地域が近い学生同士でグループを組み、各地域のPRプレゼンテーションを行います。
第21回	私の中の棚卸し 自分にできる取り組み（ボランティア・市民活動等）は、どうしたら見つけることができるのか、見つけたらどう形にしていくのかについて講義を聞きます。
第22回 } 第25回	「地域の課題」フィールドワーク 学生各自が、江戸川区のまちについて、「知りたいと思っていること」「気になっていること」、あるいは「こんなことできたらいいなと思っている地域貢献のイメージ」等を個人で調べ発表する、1年次のまとめ作業です。 発表は個人が原則ですが、学生が相互にアドバイスしあい、ワイワイと楽しく準備作業をしていきます。
第26回 } 第29回	「地域の課題」発表会 学生各自が自分の住む地域や江戸川区全体に対して「気になっていること、関心のあること」について独自に調べたことや考えたことを発表・ディスカッションします。
第30回	まとめ 1年間の振り返り 1年間の成果、反省点を共有するとともに、2年目の課題研究に向けて、自分なりのテーマを発見します。
単位外	大学祭に向けて 学びの成果を発表する大学祭への取り組みについて話し合います。（学生のみ）

● 2年次の目的・概要

最終年度にあたることを意識し、卒業後の社会貢献活動の展開に結びつく「実践的な学び」を行います。特に、「社会貢献活動の企画力の向上」、「区と協働のまちづくり」、「組織づくりやネットワークづくり」に重点を置いたプログラムです。最終的には、卒業後の社会貢献活動につながる「卒業研究」を実施し、発表します。

● 学科紹介



学科長
野山 広

国立国語研究所
日本語教育研究領域 准教授
(一社)多文化社会専門職機構
代表理事

● 曜日・時間

金曜日 14時～16時

● 1年次の授業計画（全30回）

《地域デザイン学部》

国際コミュニティ学科（1年次）

● 目的・概要

- ・ Welfare Linguistics（福祉言語学）や形成的フィールドワークのアプローチで、自他の言語や文化の成り立ちを考えながら、地域における多文化社会や国際コミュニティ構築の可能性を探究、考察します。
- ・ 地域に在住する外国人をとりまく言語・生活環境の現状、課題などを学びます。私たちの文化（自文化）だけでなく、異なる文化（他文化）に対しても理解を深め、多文化化する地域社会における、多様な言語・文化背景の人々との共生・共育、対話・協働のあり方について考えていきます。

● 講師 インディラ・バット

（江戸川インド人会 副会長）

ジョージ・W・ギッシュ

（学校法人山梨英和学院 理事長）

田辺 邦子

（学校法人深堀学園外語ビジネス専門学校 非常勤講師）

新居みどり

（特定非営利活動法人国際活動市民中心 コーディネーター） ほか

*内容は一部変更になる場合もあります。

テーマ・概要

① 日本人とその言語、文化の成り立ち

世界における日本（日本語、日本文化等）の位置付け、自分の中での日本語の位置付けを考察します。

<主なテーマ>

・日本の言語・文化史と自分自身の言語史

世界における日本語・日本文化の位置付けを概観します。また、共生社会における日本語の位置付けの多様性について確認し、その「言語」「文化」的特徴や変遷（歴史）を振り返り、自分自身の「言語史」についても考察します。

・日本文化史における仏教伝来の意味と、その音楽から感じられること

日本文化史における仏教伝来の意味について、音楽という観点から考えます。具体的には、仏教伝来の流れと共に、シルクロードを通して「声明」が伝わり、日本音楽の源流となっていることを学び、その演奏を体感します。

・日本社会の多文化化とグローバリゼーション

日本社会の多文化化の現状と背景を確認します。また、日本文化の歴史的多様性やその蓄積を踏まえながら、将来のグローバリゼーションのあり方も視野に、江戸川区内の多文化理解の重要性と共生社会構築の可能性を考えます。

② 在住外国人の複言語・複文化生活の課題から学ぶー国際交流から人間交流に向けて

<主なテーマ>

・隣国である韓国と日本ー両国間の異文化理解の促進と人間交流

韓国の生活習慣や社会風俗、文化など幅広い知識を学びます。両国間の異文化理解の促進に向けて、国際交流から人間交流の充実に向けて、その交流のあり方を深めていくために必要なこととは何かについて考えていきます。

・多様性（ダイバーシティ）から見た多文化共生社会

多様性の観点から、多文化共生社会について考えます。例えば、ジェンダー（社会的性別）とエスニシティ、日本社会における多様な人々が学ぶ権利、夜間中学や識字（リテラシー）教育、「読み書き調査」の戦後史などを概観します。また、複言語・複文化社会の先にある終活や介護等の課題について触れながら、対応方策について展望します。

・日本に住む中国語圏出身の人々の活動について

日本在住の中国語圏出身の方から生活や教育に関する課題について話を伺いつつ、共生のあり方について考えます。

・インド社会及び日本に住むインドの人々

インド固有の習慣、制度から現在の人々の暮らしぶりなどの知識を深めます。また、江戸川区のインド人社会、コミュニティの活動や講師の体験を通して、日本に在住するインドの人々の生活や考え方について理解を深めます。

③ フィールドワーク（形成的フィールドワーク）

＜主なテーマ＞

- ・フィールドワーク（形成的フィールドワーク）とは
- ・課題整理作業とワークショップ
- ・フィールドワーク（形成的フィールドワーク）の実践

④ ボランティアとして日本語の学習を支援するということ

日本に暮らす外国人や、日本語の学習を必要とする人々に、ボランティアとして日本語の学習を支援することについて、教える立場や共育という観点からの話を聞き、ワークショップを行います。

⑤ 多文化共生について考える

江戸川区をはじめ日本に移住してきた人々の現状を把握し、国籍や言葉、文化の違い、多様性（ダイバーシティ）を認め、尊重しあう「多文化共生社会」の必要性を学びます。

＜主なテーマ＞

- ・国際コミュニティ（共生社会）づくりを地域に活かす
- ・フィールド・ディ
- ・インフォーマント・ディ～日本における外国人受け入れの現状（仮題）～
- ・国際ボランティア、日本語ボランティアの最新情報
- ・ボランティアの基本的精神、姿勢

⑥ 学びの発表

入学してからこれまでの感想やフィールドワークの成果を発表します。

⑦ まとめ

この1年間の成果を振り返るとともに、2年目の課題研究に向けてワークショップを行います。

⑧ 大学祭に向けて(単位外)

学びの成果を発表する大学祭への取り組みについて話し合います（学生のみ）。

● 2年次の目的・概要

1年目のフィールドワークで対話の意味を確認するとともに、協働して行うプロジェクトチームへとさらに発展させ、各自が発見した課題についてチームで研究し、その成果を発表します。また、日本語学習の支援を含めボランティア活動や共育に関する講義や、市民活動企画立案力向上のための講義、プロジェクトやイベントなどの企画・実行を通して、実践的な授業を行います。さらに、学びの成果について社会活動体験を通じて検証し、今後の自らの実践活動にどう結びつけるか、試行錯誤しながら、国際コミュニティ（共生社会）をどのように培っていくか、知恵を出し合い、考えていきます。

● 学科紹介



学科長

笹井 宏 益

玉川大学学術研究所
高等教育開発センター 教授

《人生科学部》

子育てささえあい学科（1年次）

● 目的・概要

子どもの成長にとって親・保護者の役割が重要であることはいうまでもありませんが、子どもを取り巻く環境が大きく変化した現在、地域という場で、多くの人たちが、子どもをめぐって関わり合い、支え合い、助け合うようになることが大切です。

この学科では、乳幼児から中学生くらいまでの子どもたちを念頭におき、子育ての意義や課題等について理解を深めるとともに、子どもの豊かな成長と信頼にあふれた地域づくりを目指して、子育てを応援する意義や方法等について幅広く学びます。現在子育て中の方も、子育てを終わられた方も、地域や学校で子どもたちと関わりたいと考えている方も、そして子どもたちとともに豊かな地域を創りたいと思っている方も、ぜひ一緒に学びましょう。

● 講師 **友野 清 文**

（昭和女子大学総合研究センター 教授）

西 村 吉 弘

（国立教育政策研究所 研究員）ほか

● 曜日・時間 火曜日 10時～12時

● 1年次の授業計画

*内容は一部変更になる場合もあります。

カリキュラムの概要（順不同、全30コマ）

1 子どもの育ちを理解する：8コマ

乳幼児から中学生くらいまでの子どもを念頭におき、乳幼児期、幼稚園から小学校低中学年期、小学校高学年から中学校期といった発達段階を踏まえ、「自立」や「友人関係」、また「遊び」「食」など、子どもの成長と密接な関係があることからの意義や役割に着目しつつ、子どもの育ち全般について事例を交えながら学びます。

2 子育てをめぐる社会的課題の解決について考察する：6コマ

今と昔の子育てを比べると、医療や栄養面が改善されたり、就学前の子どもたちの学びの場が広がったりするなど良い面もたくさんありますが、スマホの普及や貧困・格差の拡大など子どもの成長発達に悪影響を及ぼしかねない事象も生じてきています。こうした環境の変化を踏まえ、現代における子育ての特徴を把握し、子育てをめぐる社会的課題の改善について学びます。

3 子どもをめぐる諸課題を把握しその背景等を理解する：6コマ

「いじめ」や「ひきこもり」「孤立」など現代の子どもは様々な課題を抱えています。その一方で、虐待やネグレクトに象徴されるように、問題のある親子関係も少なからず見受けられます。ここでは、現代の子どもや親子関係が抱えている様々な課題について、それらが生じた社会的背景等を理解し、その解決の方向について考察します。

4 子育てを応援している活動を理解する：5コマ

「子育てひろば」や「すくすくスクール」など福祉や教育にかかる行政機関では、様々な形で子育てへの応援が行われています。また、NPOや地域のグループ・サークルの中にも、子育てを応援する取り組みを進めているところがあります。官民を問わずこうした子育てを応援している活動に着目し、それらの現状と課題等について学びます。

5 子育てを応援するための実践的能力を培う：5コマ

フィールドワークや大学祭に向けて、皆で相談してイベントや展示等の内容を企画し、その実施に向けて協力し合って準備をします。また、当日には、イベントや展示等とおして、子どもたちや親・保護者と交流活動や共同作業を行います。これらの実践プロセスをつうじて、現代の親子を理解し、子育てを応援するための実践的能力を培います。

6 大学祭にむけて（単位外）

学びの成果を発表する大学祭への取り組みについて話し合います。（学生のみ）

● 2年次の目的・概要

2年次は、卒業後の活動の展開に結びつく学びを進めます。特に、実践的な「関わり力」を身に付けるため、仲間づくりの方法やイベントの企画・運営等についても学びます。併せて、2年間の学びをふり返って経験したことをまとめ、情報発信する力も身に付けます。

● 学科紹介



学科長
村田 幸子

福祉ジャーナリスト
元NHK解説委員

《人生科学部》

介護・健康学科（1年次）

● 目的・概要

住み慣れた地域社会で暮らしたい。こうした多くの人が望む願いを実現しようと、国は今、自治体ごとに創意工夫を凝らした「地域包括ケアシステム」をつくり上げるという目標を掲げています。目標を実現するためには自治体、医療・介護の専門職だけでなく、地域住民の力が欠かせません。自分の住む地域にどんな問題があるか、それを解決するためにどう活動したらいいか。そのための具体的なヒントが満載の授業です。

● 講師 鶴岡 恵子

（特定非営利活動法人コラボえどがわ理事長）ほか

● 曜日・時間 火曜日 14時～16時

● 1年次の授業計画

*内容は一部変更になる場合もあります。

実施回	テーマ・概要
第1回	オリエンテーション 学科の目的・概要や1年間の流れを説明するとともに、講義の円滑な運営を図るため講師および学生同士の相互理解を深めます。
第2回 } 第3回	高齢社会と向き合う 高齢社会が抱える諸問題を学ぶとともに、高齢者がいつまでも元気で生き生きと暮らしていくためには何が必要かを考えます。また、高齢者の健康とは何かを学びます。あわせて、介護保険制度の概要、区の手配などを学びます。
第4回 } 第7回	介護予防の重要性 介護保険制度施行後、介護予防の認知度・重要性が明確に高まりつつあります。ここでは、介護予防に有効なトレーニング、高齢者の低栄養予防および口腔ケアの重要性などについて学びます。

実施回	テーマ・概要
第8回 ↓ 第29回	プロの住民になろう 「福祉は行政が行うもの」と考えていませんか。長い間、福祉施策は行政が独占してきました。行政がすべてを決め住民はそれに従うという関係で、いわば「与えられる福祉」でした。与えられる福祉から、住民自らが選択する福祉に変えるにはどうしたらいいのでしょうか。「住民参加」をキーワードに、自分たちが暮らす地域社会は今どんな課題を抱えているか、そしてそれを解決するにはどうしたらいいかということを考え、自ら実行することが大切です。「要求するだけの住民」から「提案型の住民」に育つことができるかどうかについて考えていきます。 主なテーマ ＜認知症を地域で支える＞ ・地域に密着した小規模多機能な施設、グループホーム、認知症サポーターなど、地域ぐるみで認知症を支える取り組みからそのヒントを学びます。 ・判断能力が低下した人の権利をどのように社会で守れば良いのかを学びます。 ＜老いの住まい＞ ・住みなれた地域で住み続けることは、誰しもの願いです。ここでは特別養護老人ホーム、有料ホームやケアハウスなどの現状を学びます。 ＜地域デビュー＞ ・NPO法人の活動内容や社会的役割、可能性、魅力などについて学びます。 ・各地で行われている先駆的な市民活動にはどのようなものがあるか、また、江戸川総合人生大学卒業生グループの活動など、数々の実例を学びます。
第30回	1年間のまとめ 1年間の学びを振り返るとともに、大学祭での学習成果の発表について意見交換を行います。
単位外	大学祭に向けて 学びの成果を発表する大学祭への取り組みについて話し合います。（学生のみ）

介護・健康学科では、各専門機関の研究者や各地で先進的な取り組みをしている代表の方々にご講義いただいています。一部の先生方をご紹介します。

- ・大淵 修一（東京都健康長寿医療センター高齢者健康増進事業支援室 研究部長）
- ・岡田 雄三（社会福祉法人「夢のみずうみ村」 副代表）
- ・早瀬 昇（NPO 法人日本 NPO センター 理事、大阪ボランティア協会 常務理事）
- ・永田久美子（認知症介護研究・研修東京センター 研究部長）
- ・大貫 正男（司法書士、公益社団法人成年後見センターリーガルサポート 元理事長）
- ・平岩千代子（NPO 法人シニアライフ情報センター 理事）
- ・河田 珪子（支え合いの仕組みづくりアドバイザー）

● 2年次の目的・概要

2年次では、1年次の学びの成果を地域で活用していくために、地域の特性に即した「地域住民活動」の在り方を考え、地域の安心・安全及び住民連帯感を深める活動実践について学習します。そして、学びの集大成として卒業研究の発表を行います。



江戸川総合人生大学は、
今日行く 先で 今日用 がある
場所です

● 必修科目

必修科目

科目名	えどがわ入門
目的・概要	江戸川区について、まちづくり、環境、教育、子育て、福祉、産業など毎回テーマを変えて様々な角度から取り上げ、現状と課題を中心に理解を深めていきます。
講師	北野 大（江戸川総合人生大学 学長）・斉藤 猛（江戸川区長）・区職員ほか
開講期間	2019年10月～2020年1月
曜日・時間	木曜コース 14時～16時 ※木曜・土曜コース（授業内容は同じ）の 土曜コース 10時～12時 どちらかを受講します。
この科目の魅力	区長による講義を始め、江戸川区の幹部職員から、区の歴史と現状、将来展望などについて話を聞きます。地域では今何が求められているのか、身近な課題を改めて認識し、将来の活動のヒントにします。北野学長の講義では、江戸川総合人生大学の意義や、地域力について学びます。

※社会活動体験プログラムは2年次に学習します。

社会活動体験 <2年次>

科目名	社会活動体験
時間	延べ40時間相当
期間・曜日	2020年10月～2021年7月（受け入れ先との協議により決定）
目的・概要	体験学習プログラムです。 自分自身で40時間の地域活動やボランティア活動を企画し、取り組みます。この科目は、江戸川総合人生大学での学習と地域活動を結ぶものとして、学習成果を活かすための実践能力を高めたり、現場のニーズを理解したりするために実施しています。
この科目の魅力	1年次の学びを活かし、自分の取り組みたいボランティア活動に参加します。活動先はボランティア活動団体や区の施設、自分で新たに立ち上げたボランティアグループなど様々です。活動に加わることで団体運営のノウハウや現場での工夫などを学ぶことができます。社会活動体験を通して生きがいを見つけ、卒業後も活動を続ける方もいます。

● 選択科目

選択科目 ①

科 目 名	みんなで創る安全・安心
目的・概要	日々安心して暮らしていくためには…。わたしたちが住む江戸川区の現状やそこに潜んでいる課題について、防犯・防災の視点から学び、安全で安心なまちづくりを創造していきます。
講 師	山本 俊哉（明治大学理工学部教授）ほか
開 講 期 間	2020年1月～5月
曜 日 ・ 時 間	月曜日 14時～16時
この科目の 魅力	東日本大震災後、わたしたちはより身近に災害や犯罪を意識するようになりました。日本全体の事例だけではなく、江戸川区の消防や警察、土木部などからも、より身近な防災・防犯を学びます。一人ひとりにできる、心や物理的な面での備えについて考え、実践に結びつけていきます。

選択科目 ②

科 目 名	地球環境を考える身近な活動
目的・概要	わたしたちをとりまく自然を、実際に現場に出て観察したり、生態系について理解を深め、地球環境について考えます。同時に自然エネルギーの仕組みや、日々の生活で取り組むことのできるエコ活動について考えます。身近な活動が、地域全体、地球全体につながることを学ぶ授業です。
講 師	北野 大（江戸川総合人生大学学長）ほか
開 講 期 間	2019年10月～2020年3月
曜 日 ・ 時 間	水曜日 10時～12時
この科目の 魅力	地球環境についての問題が取り上げられるようになって久しくなりました。地球規模で考えたとき、問題の本質がどこにあるのか、また具体的に私たちが日々の努力で変えられることは何なのか。時には、講義室以外の場所で直接環境に関する問題を体感し、解決法を考えながら身の回りでできるエコ活動について一緒に考えましょう。

選択科目 ③

科 目 名	くらしと健康
目的・概要	身体と心の健康と日々の暮らしとの関係を学ぶ授業です。医師や専門家が講義を担当し、基礎編ではひとのカラダやこころの健康、食事と栄養の関係、口腔ケアなどを考えます。また、実用編として、運動の仕方や救急救命法なども学びます。
講 師	医師・臨床発達心理士・管理栄養士ほか
開 講 期 間	2020年2月～4月
曜 日 ・ 時 間	木曜日 14時～16時
この科目の 魅力	日常生活において、人になかなか聞けない身体と心の健康に関する不安や疑問が沢山あると思います。がんで命を落とさないための予防や取り組み、発達障がいと子育て、認知症ケアといった医療現場の具体事例を専門医や専門家がわかりやすく講義します。また、健康体操やAED操作体験といった実践講義もあり、楽しく受講できます。

選択科目 ④

科 目 名	カウンセリングの基礎
目的・概要	仕事、人間関係や家族関係のこと、人がこうした悩みや問題に自分らしい方法で向き合うことが出来るようになるために、寄り添い、手助けすることが「カウンセリング」です。「自分自身を知る」、「傾聴」を中心に、日常の様々な場面で活かせるカウンセリングの技法を実習を通して身につけます。
講 師	諸富祥彦（明治大学文学部教授） 大竹直子（千葉大学カウンセラー・臨床心理士）
開 講 期 間	Aコース 2019年12月～2020年3月 ※A・Bコース（授業内容は同じ）の Bコース 2020年4月～6月 どちらかを受講します。
曜 日 ・ 時 間	月曜日 9時15分～11時15分
この科目の 魅力	自分がどのような人であるかを知ることから始まり、話の聴き方・聴く態度、「自分」も「相手」も大切にしたい自己表現であるアサーションを講義と実習で学べる講座です。カウンセリングの技法を身につけ、日常のあたたかい生活の中で見失いかけていた人間関係を見直し修復してみませんか。

よくある質問

Q 子育てや介護、パートをしている人でも大丈夫ですか？

A みなさんそれぞれにご都合があり、日々お忙しいことでしょう。
学校には週に3～4日通うこととなります。
ご心配なお気持ちがありましたら何なりとご相談ください。

Q 大学に入るとどんな事が学べますか？

A 専門講師の講義によって知識が深まる事は勿論ですが、今まで知らなかった江戸川区の再発見や地域貢献の仕方、新しい仲間との出会いなど、色々なチャンスが得られます。

Q テストはありますか？
あるととても心配です。

A ご安心ください。大学では学びの理解度を知るためのテストはありません。
元気に大学に通っていただければOKです。

Q 在学中に何か資格が取れますか？

A 残念ですが、どの学科も資格取得に関しての対策講義や、資格取得試験免除等の対応は致しておりません。

Q 卒業生はどのような活動をしていますか？

A 大学での学びを活かして、地域活動やボランティア活動に参加する方や、クラスメイトと一緒に活動団体を立ち上げる方もいらっしゃいます。同窓会による趣味のクラブ活動も活発です。

Q 卒業後は必ずボランティアに参加しなければいけませんか？

A 大学は基本理念で学びの成果を地域に活かし、区民活動による「ボランティア立区」を目指しています。卒業後も活動を続けていただきたいですが、各人のご都合にお任せしています。

● もっと大学のことを知るには

● 大学のホームページを見る

- ・ 授業概要（シラバス）
- ・ 大学紹介のビデオコーナー
- ・ 卒業生の活動紹介等… が見られます

人生大学 <https://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

*2019年7月～ホームページ上での出願が可能となります。

● 「大学祭」を見学して、実際に学んでいる学生と話す

大学祭では区民の皆様に学びの成果を発表しております。
クラス毎の研究発表やステージでの趣向を凝らした発表等をお楽しみいただけます。入学相談コーナーも開設しています。
大学祭は、2019年7月20日（土）10：00～16：00
船堀駅前のタワーホール船堀 展示ホール1・2にて開催します。

● 江戸川総合人生大学を訪ねる

しのぎ文化プラザにて、担当職員が直接皆様の疑問や質問にお答えいたします。

（職員対応は土日祝を除く9:00～17:00）

※ 都営新宿線篠崎駅下車 西口直結 しのだぎ文化プラザ3階



● 入学願書の記入例

※太枠内にご記入の上、募集締切日までに、江戸川総合人生大学事務局へ提出してください。

2019年度 江戸川総合人生大学 入学願書

2019 年 7 月 1 日

江戸川総合人生大学に入学を希望しますので、入学願書を提出します。

入学希望学科	子育てささえあい			学科
(ふりがな) 氏 名	(そ う ご う い ち ろ う) 総 合 一 郎	生 年 月 日	大 昭 平	34 年 4 月 2 日 (60 歳) (2019年10月1日現在)
住 所	〒 133 - 0061 江戸川区篠崎町 7 - 20 - 19 ※アパート・マンション名もご記入ください。			
連絡先	自宅電話: 03 - 3676 - 9075 携帯電話: 090 - 1234 - * * * *			
勤務先 (学 校)	※江戸川区以外にお住まいの方は、区内勤務先(学校)を記入してください。 名 称: 勤務地: 電 話: ()			
動 機	入学したいと思った動機や目的を400字程度でご記入ください。			
(例) 私が江戸川総合人生大学に入学したいと思った理由は、定年退職を契機に、現役の 時に携わることのできなかった子育てを通じて、地元貢献できないかと考え… (→裏面へ続く)				

※2019年7月～ホームページ上での出願が可能となります。

※太枠内にご記入の上、募集締切日までに、江戸川総合人生大学事務局へ提出してください。

2019年度 江戸川総合人生大学 入学願書

2019 年 月 日

江戸川総合人生大学に入学を希望しますので、入学願書を提出します。

入学希望学科	学科			
(ふりがな) 氏 名	()	生 年 月 日	大・昭・平	年 月 日 () 歳 (2019年10月1日現在)
住 所	〒 — ※アパート・マンション名もご記入ください。			
連絡先	自宅電話： 携帯電話：			
勤務先 (学 校)	※江戸川区以外にお住まいの方は、区内勤務先(学校)を記入してください。 名 称： 勤務地： 電話： ()			
動 機	入学したいと思った動機や目的を400字程度でご記入ください。 (→裏面へ続く)			

(→表面より)

入学にあたって、大学事務局に伝えておきたいことがありましたら、ご記入ください。
(例えば、車椅子を利用されている方が、講義室以外で授業を受ける場合の留意点など)

キリシタン綱

【事務局処理欄】 ※記入しないでください。

地区コード*	受 付			
	月 日			

14・15期生の特色のある授業

江戸川まちづくり学科



国際コミュニティ学科



子育てささえあい学科



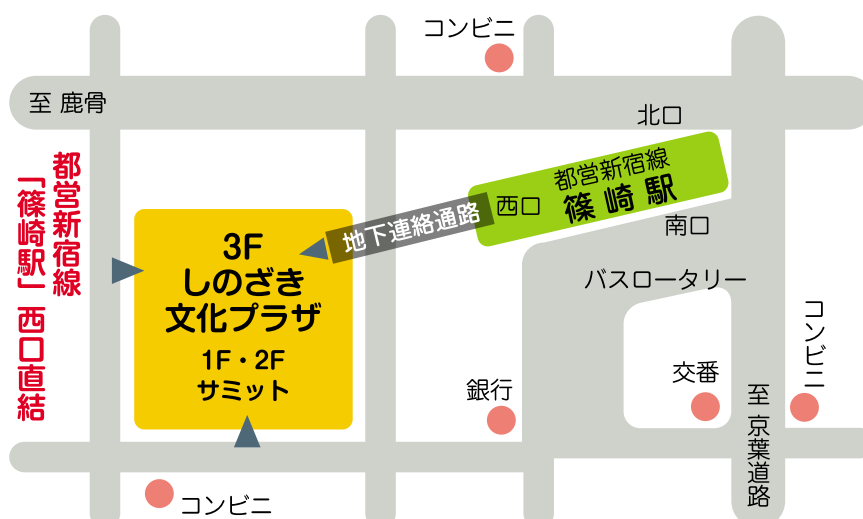
介護・健康学科



大学祭



JR新小岩駅	京成バス 新小71系統 江戸川スポーツランド行き 又は 瑞江駅行き	都営新宿線 篠崎駅	駅西口直結 徒歩1分	しのぎ文化 プラザ3F
JR小岩駅	京成バス 小72系統 瑞江駅行き 又は 一之江駅行き			
江戸川区役所	京成バス 篠01系統 篠崎駅行き 又は 江戸川スポーツランド行き			



江戸川総合人生大学

〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 しのぎ文化プラザ
 TEL 03-3676-9075 FAX 03-3676-6545
<https://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>